



浅田彰

1951年に開館し「鎌倉近美」の愛称で親しまれた『神奈川県立近代美術館 鎌倉』が閉館する。最後に一度はと訪れた田中・浅田両氏は、日本の近代美術を支えた鎌倉館の名残を惜しみつつ、不安定な世界情勢について論じ合った。

photographs by Yusuke Abe text by Kentaro Matsui

田中康夫

今月の憂いコト

「鎌倉館」の閉館から、パリ同時多発テロ、右傾化する世界、三笠宮の戦争発言まで。



カ マ キ ン
「鎌倉近代美術館」
最後の展覧会

2015年10月17日 SAT. 土 — 2016年1月31日 SUN. 日



ART 3: 1951-1965
The Birth of The Museum
of Modern Art, Kamakura

「鎌倉近代美術館」誕生

会場: 鎌倉館、第二会場: 鎌倉別館

- 休館日: 月曜日(ただし12月29日(火) - 1月3日(日))
- 開館時間: 午前9時30分 - 午後5時30分まで
- 観覧料: 一般1000円(9歳以下500円)、75歳以上500円、高校生100円
- * ()内は20名以上の団体料金です。
- * 中学生以下、障害者手帳をお持ちの方につきましてはお問い合わせください。
- * ファミリー・コミュニケーションの日(12月6日)は、お友達の方を除くでご観覧いただけます。
- * 無料開館日: 11月3日(火曜・祝日) 鎌倉近代美術館で開催中の展覧会を無料でご観覧いただけます。

主催: 神奈川県立近代美術館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市宮ノ下1-53 TEL 0467-22-55

憂国呆談

season 2 VOLUME 67

日本の近代美術を支えた、「鎌倉館」が閉館へ。

浅田 1951年に日本最初の公立近代美術館として誕生した『鎌倉近代美術館』（現・神奈川県立近代美術館 鎌倉）が閉館する。土地は鶴岡八幡宮のもので、賃借契約が切れたから終了、今後は葉山の別館がメインになるってんだけど、県が予算をつけりゃ契約は延長できたはずで、残すべきだったと思うな。実験工房」展をやったときは武満徹をはじめとする実験工房のメンバーが昔ここを見に来て撮った写真があった、まさにそういう歴史を体現する美術館なんで、それを閉じるってのは歴史を閉じるってことだから。

田中 年代物の建物を免震化して活用し続ける「レトロフィット」という哲学が、今の日本の行政や政治には希薄だね。幕末から明治初期の日本は、初代駐日英国公使のラザフォード・オールコックに「ヨーロッパには、これほど多くの全く独特のすばらしい容顔を見せる首都はない」と語らせ、日本の百合や菊を紹介した園芸学者のロバート・フォーチュンも「樹木で縁取られた静かな道や常緑樹の生け垣などの美しさは、世界のどの都市も及ばない」と記していたのに、今や我々は涙目だ。

浅田 戦前ル・コルビュジェの下で学んだのが前川國男（日本でその下で学んだのが丹下健三）と坂倉準三。37年のパリ万博は、アルベルト・シュペア設計のドイツ館とボリス・イヨファン設計のソ連館が、いずれも新古典主義的なデザインでヒトラーとスターリンの覇権争いを表現する一方、ホセ・ルイ・セルト設計のスペイン館ではファシズムの暴力に抗議するパブロ・ピカソの

「ゲルニカ」を展示するといったすごい戦いが展開された、その中で坂倉設計の日本館がグラン・プリを取ったんだからね。その彼が戦後に鎌倉館を建てた頃は資金も技術も不十分で耐震性に問題があったりする。でもそんなのいくらでも補強できるんだから。

田中 旧・岩崎小弥太郎の跡地に前川、坂倉、吉村順三の共同設計で50年に竣工した、戦後モダニズム建築を代表する六本木の国際文化会館は、空中権を森ビルに売却して得た資金で、保存再生のレトロフィットを実現したのね。

浅田 建物は残し、八幡宮が文化施設として活用するらしいけど、それだったら今のままでいいのに。

リアリティのないドローン戦争。

浅田 130人以上の死者を出したパリのテロは大きなショックだったけれど、その後の対応も問題だね。

9・11の後、アメリカが逆上して戦争へ向かうとしたときは、フランスのジャック・シラク保守政権とドイツのゲアハルト・シュレーダー社民政権が組んで止めようとした。戦争は問題を解決しないどころか悪化させるっていうドミニク・ド・ヴィルパン 仏外相の国連での発言は名演説として記憶されている。そのフランス、しかも社会党のフランソワ・オランド大統領が、ブッシュ・ジュニア、あるいは彼をたきつけた労働党のトニー・ブレア英首相と同じように「これは戦争だ」と宣言し、シリアへの空爆を強化してるんだから。



田中 ヴェルサイユ宮殿に上下両院の全議員を集めて異例の会議を緊急開催し、「我々の敵はISだ」空爆を強化し、殲滅する「フランスを脅かす過激思想のテロリスト」と、我々は戦争状態」と激昂し、国歌のラ・マルセイーズを全員で熱唱した。その歌詞は「奴らは我らの元に来て 我らの子と妻の喉を掻き切る 武器を取れ 市民らよ 隊列を組め 前進せよ 汚れた血が 我らの畑の畝を満たすまで」という、まさにリヴェンジの歌。でも、前から言っているけど、国家対国家の戦争はいつの日か一旦は終戦を迎えるけれど、宣戦布告なきテロというのは変幻自在に拡散していくウィルスだから、殲滅なんてできっこない。

浅田 9・11直後にも言ったように、テロはいかに大規模であっても犯罪なんで、警察（必要なら重武装の）によって摘発し、裁判で裁くべきもの。それを戦争って言うのは「イスラム国（IS）」を自称する非合法組織を国家として認めることなんで、彼らにとってこれほど嬉しいことはない。「われわれはイスラム国としてキリスト教諸国と戦っている、全世界のイスラム教徒はわが国の下に集まれ」って言えるわけだから。他方、米仏は宣戦布告もなしに他国に飛行機やドローンを飛ばし、裁判もなしに「敵」を空爆で殺してるんだから、法的には殺人

以外の何ものでもない。

田中 クンドウズの「国境なき医師団」病院への爆撃についてもアフガニスタン駐留米軍は「避けることのできた人為ミスに、手順や装備の不備が重なった結果」と認めたものの謝罪はなく、「作成していた」攻撃禁止リストを活用せず、通信システムに不具合があったにもかかわらず米軍が攻撃を強行したことに衝撃を受けている」と医師団側が声明を発表した。

浅田 ISはリーダーのアブ・バクル・アル・バグダディが米軍のつくったイラクの収容所で旧フセイン政権の残党とつながって形成された。中東では、旧・フセイン政権の残党が、石油を密売したり、ヤクザの「見かじめ料」みたいに税金をとったりして、一定の力をもってるらしく、空爆はそれに打撃を与える効果はある。しかし、ネットでも広がった過激派はまさにウィルスみたいに各地で勝手にテロを起こすんで、パリのテロもその典型。中央から組織されてるわけじゃなくて、そもそもアル・カイダのオサマ・ビン・ラディンのような中心人物はいない。バグダディなんて生きてるかどうかもわかんないんだから。そんな相手とどうやって「戦争」するんだっての。

田中 湾岸戦争勃発時「日本が湾岸戦争および今後ありうべき一切の戦争に加担すること」に反対する」という声明を「文学者の討論集会」で出した際、一緒に「NEWS 23」に出演した中上健次が「見えない戦争」に不気味さを感じると述べたのを思い出す。第一次世界大戦ではオックスフォードの1学年の3割以上が戦死し、第二次世界大戦でも学徒出陣があり、塹壕の中で兵士が苦しんで死んでいった。だけど、今は「リアル」がない。兵士よりも民間人が死ぬ率の

ほうが圧倒的に高くなっている。

浅田 アメリカもヴェトナム戦争の頃は徴兵制だったから、政治家の息子だって戦地で戦争の現実と直面した(ブッシュ・ジュニアみたいに州兵になることでヴェトナム行きを逃れた連中も多いけど)。反戦運動が盛り上がったのも当然だよ。ところが今は志願制という名の経済的徴兵制で、貧しい移民の子どもなんかが国籍を取り奨学金で大学に行くために戦場に行ってるわけ。

さらに、ドローンによる遠隔戦争がリアリティをますます希薄にしてるんだな。『ドローン・オブ・ウォー(GOOD KILL)』って映画に描かれてるように、ネヴァダ州の基地に置かれたエアコン完備のドローラーの中からアフガニスタン上空のドローンを遠隔操作してるんだけど、近くのラスヴェガスで遊んでると同じゲーム感覚なの。実際、新しく配属される若者はゲーム・センターでリクルートされたゲームの達人だったりするわけ。元・パイロットの主人公は現実と危険を冒しながら飛んでたときのほうがよかったと思ってる、自宅で家族とともに楽しく過ごしながら勤務時間になると遠隔操作で人を殺すことを繰り返してらるうちに精神のバランスを崩していきただけだね。現実には、そういう症例は多いらしい。しかし、それより問題なのは、「国境なき医師団」の病院の例のように誤爆の連続で、「敵」を1人殺すのに民間人を何十人も殺しちゃってる、それを「副次的被害(コラテラル・ダメージ)」なんてよく言えたもんだよ。

いずれにせよ、独仏で言えば、最近死んだ革新のシュミットと保守のジスカール・デスタン、保守のコールと革新のミッテラン、そして革新のシュレーダーと保守のシ

ラクが組んで、中道路線を主張しえた時代があったのに、冷戦終結後は一段階右傾化が進み、革新のオランダがかつての保守以上にタカ派的な姿勢を取らざるをえなくなってる。英労働党のブレアも米民主党のビル&ヒラリー・クリントンやオバマも同じこと。さらに、右だった米共和党はドナルド・トランプやテッド・クルーズのようにかつての極右のようなことを言わないと予備選に勝てないんだからね。

案の定、テロの後のフランス州議会選挙の第1回投票では17選挙区のうちの6つで極右の国民戦線が第一党になった——さすがに国民が危機感を持ち、社会党も勝てそうにないところでは立候補を取り下げてニコラ・サルコジ前・大統領の率いる共和党への投票を呼びかけるという非常手段に出たんで、第2回投票では国民戦線は第三党にとどまったけど。いや、危ないところまで来たと思うよ。

田中 ドーバー海峡を挟んだイギリスでは、『夕刊フジ』的存在の右派系タブロイド紙『デイリー・メール』が「米国は過去17か



田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。

月間に8300回の空爆を行うも成果は上からず」と報じ、デイヴィッド・キヤメロン首相の「空爆は国益」説に反旗を翻し話題になった。日本でも11月に結党60年を迎えた自由民主党の党員・党友に『朝日新聞』が世論調査を行ったら、「党是」の憲法改正を「早く実現したほうがよい」34%、「急ぐ必要はない」57%で、憲法9条を「変えるほうがよい」37%、「変えないほうがよい」43%という結果に。憲法記念日前に『産経新聞』が行った世論調査でも憲法改正に賛成41%、反対48%だった。

浅田 さつき言った事態への反動か、イギリスやカナダで左翼が復活してきたのは面白い現象だね。ともあれ、安倍晋三首相も昔の自民党で言えば極右、それが全体として一段階右傾化した結果として主流派になっちゃったわけだ。

そういえば『海難1890』っていう日本とトルコの合作映画があつてさ。和歌山の串本沖でトルコの軍艦が台風にあつて座礁し587名もの死者を出すんだけど、地元の人たちが必死で頑張つて69名を救助

一緒に『NEWS 23』に出演した
中上健次が「見えない戦争」に
不気味さを感じると
述べたのを思い出す。(田中)



した、トルコはその恩を覚えて、95年後のイラン・イラク戦争のときにテヘランに取り残された日本人をトルコ航空機で救出してくれたって話。実際、大島には立派な記念碑が建つて、今も駐日トルコ大使が着任すると必ず行くらしい。近くではトルコ人の店で絨毯やアイスクリームを売ってるけど(笑)。トルコの親日感情は敵国ロシアに日本が勝つたことでもますます強まった。そういう絆こそが大事なんで、安倍政権のような対米従属一辺倒でトルコやアラブの親日感情を損なうのは愚かだと思ふよ。まあ、この映画の前にエルドアン大統領のメッセージが流れるのはどうかと思うし、日本が独自に飛行機を飛ばせず自国民を救出できなかったって話は安倍の安保法制の正当化につながるんで、そこは要注目だけだ。

100歳を迎えた、三笠宮の戦争発言。

田中 12月2日に三笠宮が100歳の誕生日を迎えた。重さ1キログラムのダンベルを使って毎日30分の運動をしているのにも驚嘆したけど、廃刊になった雑誌『This's 読売』で1992年に「南京大虐殺」について、「最近の新聞などで議論されているのを見ますと、なんだか人数のことが問題になっています。辞典には、虐殺とはむごたらしく殺すことと書いてあります。つまり、人数は関係ありません」と「闇に葬られた皇室の軍部批判」と題するインタビューで述べている。

もう少し引用すると、「私が戦地で強いショックを受けたのは、ある青年将校から『新兵教育には、生きている捕虜を目標にして銃剣術の練習をするのがいちばんよい。』

それで根性ができる」という話を聞いた時でした。「南京の総司令部では、満州にいた日本の部隊の実写映画を見ました。それには、広い野原に中国人の捕虜が、たぶん杭にくくりつけられており、また、そこに毒ガスが放射されたり、毒ガス弾が発射されたりしていました。ほんとうに目を覆いたくなる場面でした。これこそ虐殺以外の何ものでもないでしょう。」「しかし、日本軍が昔からこんなだったのではありません。北京駐屯の岡村寧次大将（陸士十六期・東京出身）などは、その前から軍紀、軍律の乱れを心配され、四悪（強姦、略奪、放火、殺人）厳禁ということを言われていました」と。

浅田 つまり、四悪が実際に行われてたことだね。南京大虐殺の犠牲者が30万人ってのが中国の誇張だとして、じゃあ3万人なら、あるいは3000人ならいいのか。三笠宮の言うとおりに、人数で争うなんて愚劣の極み。

田中 30万人という数字は、国民党軍に守られていた長春を中共軍側が包囲して餓死させたのはじめとする犠牲者数と平仄を合わせたという説もあるけど、三笠宮が言うように、捕虜を殺すのは国際法違反なんだから。遠藤蒼の『毛沢東―日本軍と共に謀った男―』（新潮新書）は、国民党軍と戦えと巧妙に日本軍に持ちかける一方、自軍の兵力を温存した毛沢東を膨大な資料に基づき活写している。その策略に騙されて南下し、兵站が延びて日本軍は疲弊していく。敵ながらあつぱれ、と毛沢東の戦略を彼女は「評価」している。「内実が正義の戦いでなかったからこそ、いっそう表面的には聖戦を強調せざるを得なかったのではないか」と三笠宮が述懐する日本側との彼我の



杉原千畝を外務大臣にでもしとけば日本はユダヤ・マネーでもっと早く復興できてたかも。(浅田)

違いは大きい。

浅田 確かに、日本軍に勝って中国を解放したのは自分たちだっという中国共産党の主張は嘘っぱちだね。

三笠宮は、10年くらい前のNHKのインタビューでも、陸軍将校として行った中国で、戦争が始まってずいぶん経つのにまだキリスト教の宣教師がいたこと、そして人民解放軍が「长征」と称して逃げ回りながらも岩山の上で畑を耕してたことが印象に残ったって言った。それで、イエス・キリストとマルクスを理解したいと思った、それにはユダヤの理解が必要で、そのためには古代中東に遡らなきゃいけない、と。すごいでしょ。実際、彼はトルコの遺跡発掘をはじめ中東考古学に大きく貢献したんだから大したものだよ。

田中 「偽りを述べる者が愛国者となたえられ、真実を語る者が売国奴と罵られた世の中を私は経験してきた」と1959年に出版した『日本のあけぼの―建国と紀元をめぐって―』でも述べている。

浅田 ついでに映画の話をする、杉原千

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。83年に出版されたデビュー作『構造と力―記号論を超えて』はベストセラーに。



畝」ってのも題材は面白い。彼がリトニアの領事代理だったとき本省の命令を無視してユダヤ人にパスポートを発給し、6000人もユダヤ人を救ったって話だけど、白石仁章（外務省外交史料館課長補佐）の『課報の天才 杉原千畝』（新潮選書）によると、彼はヒューマニストである前にすぐれた課報専門家で、たとえばドイツのソ連侵攻の兆候を最も早い時期につかんでたらしい。そういう課報専門家の立場から、現実を見ず対米戦争に突入する軍国主義イデオログやその「謀略」に批判的だった。1940年という早い時期にユダヤ人を助けたのも状況を見通してたからだろう、と。

ちなみに、最近翻訳されたティモシー・スナイダーの『ブラッドランド』（筑摩書房）は、ナチスによるユダヤ人虐殺のみならず、ヒトラーとスターリンが東欧で1400万人を殺した、その全体像を見ようとするものだけに、その文脈を言えば、杉原はまずはスターリンの脅威からユダヤ人を守ったと言わなきゃだっという白石の主張は正しいと思うな。それにしても、本省の命令を無

視した彼が戦後外務省を去ることになるのは残念な話で、彼を外務大臣にでもしとけば日本はユダヤ・マネーでもっと早く復興できてたかも。ちなみに、ステイヴン・スピルバーグ監督の『シンドラーのリスト』も、シンドラーがユダヤ人を低賃金で働かせてた実業家で、ただのヒューマニストじゃないってところが面白いんだよね。とはいえ、スピルバーグのがプロの映画だとすれば『杉原千畝』はあまりにアマチュアっぽくて見るに堪えないのが残念。

もうひとつ、山田洋次の『母と暮せば』ってのも案外面白いついていうか、ある意味、とんでもない映画。長崎の原爆で息子（二宮和也）を亡くした母（吉永小百合）のところに息子の幽霊が出るようになるんだけど、その母子が嘘のように自然な「暮し」を展開する。登場人物すべてがとことん「良い人」で、母子の関係にも何の曇りもない。こういうことは近代リアリズムではありえないわけだけど、なぜか許せちゃうのは、山田監督の天然ボケのせいなのか、主役二人の演技を超えた演技のせいなのか。いわば、これ自体が古き良き時代の素朴な映画の幽霊のようなもの、それが嘘のように自然に展開して、批評意識の付け入る隙がほとんどないんだよね。最後、幽霊がこの世を去って天国に至るところの映像はさすがにナイーヴすぎて、全体を褒めることを難しくしてるけど。とくに「小百合さん」は「美智子さん」と同じく昭和の日本の悲しみを一身に体現するようところがあつて、坂本龍一が音楽を引き受けたのも、単に反戦反核映画だからっていうより、そのあたりを考へてのことじゃないかな。「美しい国」を目指す人たちにもぜひ見てもらいたいと思う。